



学校だより

平成 28 (2016) 年 7 月 30 日

カンタベリー日本語補習校

校長 古川 明

《2学期が始まりました!》

7月23日(土)から、2学期が始まりました。寒い季節ですが、太陽の日の出は少しずつ早まり、日没の時間は少しずつ遅くなってきています。南半球にあるクライストチャーチでは、太陽の日差しが実際の季節より一足早く春の訪れを告げています。

先日、日本からの編入生と面談をしました。補習校では、毎週、家庭で取り組む課題が出され、それについては次週までに学習を済ませ、提出を求められることを話しました。編入生は、すでに補習校の学習形態について予備知識を持っているようで、驚くこともなく、しっかり受け止めていました。編入した子どもたちは、今後、補習校の学習と現地校の学習を並行して行うことになり、時間の管理を計画的に行う必要があります。また、補習校に通う目的については、家庭内で絶えず確認をして、家庭学習が継続して取り組めるよう家族の支援も大切になってきます。

編入生の子どもたちの話を聞きながら、太陽の光を浴びながらすくすく伸びる若木の成長を連想しました。補習校の子どもたちの将来が、自らの夢と希望の実現に向けて挑戦することが可能な、平和な社会であることを願っています。

《今年度、前期通知表は発行しません!》

本校の通知表「あゆみ」は、前期と後期の2度にわたって発行してきました。しかし、前期通知表については、授業時間中に十分な評価資料を収集することが困難な状態であることが分かりました。特に、各教科の観点別評価項目の客観的データが不足しています。この状況で各観点別評価項目を4段階評定(よくできる、できる、もうすこし、がんばろう)で評価することは、子どもたちの学習状況を適切に評価したことにはなりません。その結果、子どもたちの学習意欲を減退させ、学力の低下を招くことになると判断しました。そこで、前期通知表「あゆみ」は発行しませんが、後期個別教育相談(10/15, 10/22, 10/29)で子どもの前期における学習状況、生活状況、出欠席状況について、一部説明資料を添えてお伝えすることにします。なお、前期に収集した評価資料は、後期の評価資料に加味させて学年末通知表「あゆみ」として発行します。

《平成28年度 補習校評価アンケートの分析結果報告》

学校評価アンケートの実施に際しまして、ご協力ありがとうございました。保護者・日本人コミュニティーの皆様へ、分析結果の概要をご報告いたします。裏面に回収データのグラフが掲載してありますので、合わせてご覧ください。

保護者の皆様から「よく当てはまる」「やや当てはまる」を合わせて90%以上の評価を得ている項目は、(1)、(3)、(4)、(5)、(6)、(7)、(8)、(9)、(10)、(13)、(14)、(15)、(16)、(17)、(18)です。一方、80%未満の評価となっている項目は、(11)、(19)です。

昨年度と比較して90%以上の評価を得た項目が、13項目から15項目へと増加しております。一方、80%未満の評価にとどまっている項目は、1項目から2項目へと増えました。

また、昨年度と比較して、各評価項目で最大5ポイント前後の増減で、小幅な変動におさまっております。

保護者の皆様から、「補習校の教育方針や教育目標、重点目標について、保護者に分かりやすく伝え、子どもたちの成長に役立つ内容である」、「補習校の授業では、分かりやすく教えてもらっている」、「子どもたちに基礎・基本的な知識、技能の習得と共に、学習の方法や学び方を習得・活用させることに努める」では、引き続いてご理解をいただいていることが分かります。

しかし、「補習校は、思いやりの心をもった子どもを育てるために心の教育を進めている」、「子どもは、補習校や友達のことをよく話します」について、高い評価はされていません。また、「緊急時の具体的対応について」は、十分な理解には至っておりません。

補習校評価アンケートを分析した結果、以下のことが考えられます。

(1) 補習校に通う子どもたちの確かな学力を、さらに高めるよう期待されています。基礎基本である知識、技能の習得(補習校教育の重点)にとどまることなく、子どもたちが学んだ内容を活用・応用して、情報収集とその分析を行い、新たな考えや工夫・改善を導き出す学力(課題解決力)の育成が望まれています。このような学力を育てる一つの学習形態は、「学び合い学習」です。そのため、子どもたち一人ひとりの確かな学力を把握しておくことが、重要と考えております。

「学び合い学習」は、授業の中で継続的に実践する必要があります。補習校の教育活動として、各教員による「学び合い学習」の授業研究・研究協議を行い、教員の授業力を地道に高めることが、保護者の期待でもあります。

(2) 家庭学習の大切さを十分理解され、子どもの学習支援に理解をいただいております。教室での学習と家庭での学習は5:5で統合された結果、知識、技能の習得と活用が身に付くこととなります。子どもの成長と在籍学年により、子どもへの関わり方に違いが出てきますが、補習校へ通う目的を家庭で絶えず確認され、今後とも子どもがより良く成長されることを期待しております。

【裏面に今年度の補習校評価グラフが掲載されています】

平成 28 年度 学校評価アンケート 集計結果 (2016/5/14~5/28 実施) 回答数 : 73 (55%)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

(1) 補習校は、学校教育目標や重点目標について、わかりやすく伝えています。	
(2) 補習校は、思いやりの心をもった子どもを育てるために心の教育を進めています。	
(3) 補習校の教育方針や教育目標は、子どもの成長に役立つ内容であると思います。	
(4) 補習校は、家庭や日本人コミュニティとの連携を重視した教育を推進しています。	
(5-1) 子どもは、補習校へ楽しそうに元気よく行っています。	
(6) 補習校の授業は、わかりやすく教えてもらっています。	
(7) 子どもは、補習校の学校行事や日本人コミュニティの催しなどで、保護者や日本人コミュニティの人々と生き生きと関わって活動しています。	
(8) 補習校は、子ども一人ひとりを大事にし、気軽に相談できます。	
(9) 子どもは、お互いに協力しあいながら補習校で過ごしている姿を見かけます。	
(10) 子どもは、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはんや挨拶、ルール等）を身に付けて生活しています。	
(11) 子どもは、補習校や友達のことをよく話します。	
(12) 子どもは、家庭学習や補習校の宿題をする習慣が身に付いています。	
(13) 2015 年度から算数・数学の時間を 60 分間とし、子どもたちに生きた学力（確かな学力）が身に付くよう指導時間の確保に努める。	
(14) 今後、子どもたちに基礎・基本的な知識、技能の習得と共に、学習の方法や学び方を習得・活用させることに努める。	
(15) 今後、補習校と家庭や日本人コミュニティとの連携・協力を推進できるよう努める。	
(16) 私は、補習校の授業参観や懇談会、個別教育相談会には積極的に参加し、子どもの様子や補習校の取り組みを分かろうとしています。	
(17) 補習校は、保護者や日本人コミュニティの人々に行事や授業参観など様々な教育活動への参加を呼びかけています。	
(18) 私は、補習校の学校だよりや学年通信には目を通し、学校の活動の様子を分かろうとしています。	
(19) 私は、緊急時の対応の仕方を具体的に理解しています。	